令和４年度　第４回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
令和４年７月11日（月） 午後２時００分 ↓ 午後３時３０分 第２研修室	教　育　長　坂 元　裕 人 教 育 委 員　田 原　正 人 教 育 委 員　葛 迫　幸 平 教 育 委 員　田之上　厚美 教 育 委 員　福 里　由 加	教育総務課長　野 村 宏 治 学校教育課長　今 井　誠 社会教育課長　港　耕 作 国体推進課長　米 田 昭 嗣

会　議　要　旨

１　開　会

定刻、定足数に達しており、令和４年度第４回教育委員会定例会を開会した。

２　令和４年度第３回定例会会議録の承認について

承認

３　議　事

報告第 19 号　垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について

報告第 20 号　垂水市社会教育委員の委嘱について

４　その他

令和４年度以降の成人式の対象年齢及び名称等について

教育委員会の事務の点検及び評価について（令和３年度分）

５　委員並びに教育長及び課長報告

６　閉　会

議　決　事　項

件　　名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第19号 　垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について	垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第20号 　垂水市社会教育委員の委嘱について	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

議 事 内 容 等

３　議　事 社会教育課長	**報告第 19 号** **垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について** 　垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。 （質疑なし） **報告第20号** **垂水市社会教育委員の委嘱について** 　垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。 （質疑なし）
４　その他 社会教育課長	令和４年度以降の成人式の対象年齢及び名称等について その内容「名称：二十歳のつどい、対象年齢 20 歳、日程１月５日」を説明。
田之上委員	１月５日である必要性は。大学も始まっている、仕事も始まっている中で、参加したくても参加できない子が増えてしまうので、この時期はどうなのかなと思うが。

社会教育課長	開催時期については、議会でも話が出た。垂水市は、これまで１月５日にずっと開催してきたので、新成人の中には、もうこの日に着物を予約したり、この日に予定を合わせている。例えば１月３日という案もあるが、そういう機運が盛り上がれば考えていこうと思う。ただ、１月３日にするとしても２～３年前から周知が必要と思われる。
国体推進課長	市が日程を決めるというより、実行委員会で日程は決定される。実行委員会で今後の参考意見として日程変更案が出れば、その声を尊重していきたい。あくまで実行委員会で今後の成人式の日程を決めるというスタンスで望みたい。
福里委員	垂水の場合は以前から１月５日と決まっているので、５日だったら行けないと最初から決めつけている人が多いと思う。仕事をしている人は５日まで休みが取れずに諦める人も多いのではと思います。
教育総務課長	６月 28 日に開催された、教育委員会外部評価委員会に提出した資料についてその内容を説明。
田原委員	２年間ほど、学校訪問に行けず、行事にもなかなか参加できなかったので、先日久しぶりに学校訪問をしたら新鮮な気持ちになった。コロナ禍でも、各学校は様々な工夫をされ努力されていることに感激した。
葛迫委員	コロナ禍と言われてもう３年になる。学校訪問しても、あまり声を出さないように指導があるのか、子供たちは少し元気がないように思えた。コロナも無症状の人が皆に感染させてしまうのが怖いと思う。いつになったら収束するのか分からない。目に見えないコロナ。コロナで先が見えない。これが今の社会なんだと思う。
５　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	「7/6（水）学校訪問について」 ７月６日（水）午前中、水之上小学校を訪問した。水之上小学校は、校舎内外がきちんと整理されており、教室や廊下がすっきりとしていて綺麗だった。コロナ禍のせいか、子供たちが落ち着きある態度で学習に取り組んでいて、授業の様々な場面で、高学年はタブレットを使いこなし、学習に取り組んでいる姿が見られた。一年生がタブレットを出してくださいと言う先生の指示に対して、ワクワクしながら取り組む姿が感動的であった。ワクワクしながら授業に取り組むのは、最高だと思った。先生方も操作に慣れてきて、タブレットを通しての指示や提示、情報集約などの作業がス

	ムーズであり、ただ使うだけではなく、効果的な活用がなされてきていると感じることであった。また、特別支援学級の子供たちのタブレット活用能力の高さや意欲には驚かされた。確かに様々な可能性を秘めた学習ツールであるなと実感したところである。少し気になったのが、不登校児童のことである。学校の取組に対して保護者の不登校の受け止めや子供への対応が今一つ弱いと言うか問題だなと思った。垂水小学校で前の校長先生が不登校児童の母親に対して寄り添っておられた姿を思い出し、水之上小学校の教頭先生は女性なので、教頭先生の母親へ寄り添ってのアドバイスやＳＳＷや福祉の家庭児童相談員、地域の民生委員などの支援も含めてのケース会議というか、総合的な取組が必要かなと思う。 　午後からは協和小学校を訪問した。校長先生、教頭先生のコンビネーションが素晴らしく、文字通り管理職が学校を牽引している姿が垣間見えた。子供たちはタブレットを有効に使いこなし、先生と一緒になって授業をつくり上げているという感じを受けた。道徳の授業での活用の部分は凄かった。タブレット端末周辺機器の導入後に、成績が伸びたという報告があったが、これはタブレットの効果と言うよりもタブレットを使うことで、子供たちはどんな学習をするのだろうかという期待や好奇心が高まったことであろうし、先生方はタブレットを授業のどの場面でどのように使おうかと教材研究を深めたであろう。また、管理職を含めて、学校全体で授業をどう進めるか研究を深められた成果であろうと思う。また、両校ともタブレット端末周辺機器に子供たちが意欲的に取り組むことが分かったので、まずは楽しく活用させながら、その可能性を教師と児童が一体となって広げていただきたいと強く思ったところである。
葛迫委員	「学校訪問について」 　７月６日（水）、午前中に水之上小学校を訪問した。田原委員もおっしゃったが、どうもあの不登校の児童のことが気になった。学校が嫌いになる学校に行けなくなる子供が、どうしたら学校を好きになるかを考えて物事を捉えていった方がいいのではないかと思います。学校は楽しい場所であり、友達と遊ぶ場所であり、先生と交わる場所である。そして、子供たちにとって学校が生活の一部になってほしいなと感じます。水之上小学校で一番注目したのが、「水小美術館」です。本当にこれはいい企画だと思います。「私の作品も美術館に展示されたい。」全ての児童にそう思ってほしいと思います。そう思うようになることが興味や成長へと繋がっていくと思います。そして、それを成すためだけではなく何を描きたいのか、どういう気持ちで描いたのか、そういうことをみんなでギャラリートークをしてみたらどうだろうかと思います。そういうことをすることで水之上小学校の研究テーマにもある「読み取る力」が高まっていくのではと感じます。 　それから、協和小学校は午後からでしたが、いつの間にか全学年複式のクラスになってしまったんだなあと思いました。複式になることは、やっぱり児童の負担が結構大きいと思いますが、協和小学校はタブレットの活用がすばらしいので、タブレットを利用しての授業がその負担を解決してくれるのではと思っています。協和小学校は非常に歴史のある小学校で駅

	伝や水泳などのスポーツ、そして学業においても垂水市内では高いレベルの小学校だったと思います。その先輩たちの輝かしい功績を引き継いでいってほしいと思います。 「7月8日（金）垂水市図画作品審査会について」 コロナ禍で、３年ぶりの審査になりましたが、出品点数が今までと違って「学級数×５点以内」と決まっていることから、審査する作品が非常に少なくなった感じがしました。審査内容は年長園児・１～３年の低学年・４～６年の高学年の各学年から５点を特選として選び、そのうち年長園児以外の学年から一番いい作品１点を県図画作品展出品とする審査でした。 これまで県の作品は、ＮＨＫの鹿児島支局のロビーに飾ってあって、毎年同じ中学校（帖佐中、重富中、あと鹿屋の田崎中など）からの作品で、これを観ると垂水中央中の生徒の作品は全然ダメだなあと思っていたのが、今年の中学生の作品を観たらこれらに劣らないのです。まあ、指導者でこんなに変わるのかなと思いました。４月からなので、まだ３か月です。先生にどんな指導をされたのか尋ねてみることでした。また、不思議なもので、この中学生の効果が小学校にも移っているように感じました。 まず、第一印象は、作品のレベルが高くなったなと思った。園児から小学校１～３年生までの作品がすごく変わってきている。概念的な作品が減ってきている。小学校高学年（４～６年生）の作品が大人びている。形や空間の取り方に今までにないうまさを感じました。中学生は、今までと違い構図やリアリティーに長けた作品が登場してきました。やはり指導者が変わるとこうも違ってくるのかと感じた審査会でした。先生と話していると熱意が伝わってきます。先生は兎に角絵が好きなんです。これからの中学校が楽しみです。この前１年かけて描いた中学生の絵は、今図書館に飾ってありますが、あの絵は何だったのだろうと思うことです。やはり、絵に限ったことではなく、英語でも理科でも社会でも何の教科でもそうなのであろうが、先生のこの意気込みが子供たちの力を伸ばしていくのだなあと感じました。 今後もこのような作品が出品されると和田英作のふるさと垂水が一段とクローズアップされるのではと期待したいと思います。
田之上委員	「学校訪問―水之上小学校・協和小学校」 水之上小学校は、雨天の訪問で、芝の綺麗な校庭はいたる所に水溜まりができており、雨があがってもすぐには遊べないのかなと思うことであった。子供たちは、明るく活気がある授業を受けていた。話し合い活動も活発でタブレットに慣れているようで有効に活用しているように感じた。 協和小学校は、崩れた後の裏山は随分と緑に覆われてきていたが、これからの台風等の大雨シーズンを控え心配が続くことであろうと思った。少人数ではあるが子供たちは活発に授業を受けていた。管理職もタブレット活用に積極的で、他校とのオンライン授業などの活用の幅を広げているようであった。今回も、ひまわり学級の子供たちに温かい気持ちを貰った。

	「教育講演会」 ６月 19 日、教育講演会に行ってきた。「垂水らしいＧＩＧＡスクール構想が目指すもの」と題し、渡邉浩光氏による講演が行われた。ＧＩＧＡスクールも２年目に入り、まず、子供たちはタブレットをドンドン触って慣れることから始まり、学校訪問でも見てきたように、今度はそれを、うまく効果的に活用していくという段階へと進んでいる訳であるが、子供たちはこれから私達が生きてきたよりもすごく大きく変化していく社会を生きていかなければならないので、どうしてもパソコンやタブレットそれらの機器という物は、使いこなさないといけない道具であろうと思うので、子供たちには学生時代にどんどん使用し慣れていって、社会に出て行ってほしいと思う。これから大きく変化していく社会を生きていく子供たちにとって基盤となるように活用してほしいものである。 渡邉先生の講演会は、講演時間が少し短かったのではと思った。保護者の方に多く参加してもらっての講演会ということで、内容を理解してもらうには、何の予備知識もないとちょっと厳しいのかなと、はやり予習がないと少し分かりにくかったのではと感じた。 「学童保育支援員研修」 災害時の危機管理について、県地域防災アドバイザーの村野　剛氏よりお話を伺った。学童でも、日頃から一通り地震・火災・不審者等の避難訓練を実施しているが、大雨や台風、桜島大噴火時等の避難を含めて、それぞれの災害を想定し、それらの対応を普段から準備しておくことの重要性を改めて感じた。関係者の意識の共有が的確な判断につながり、子供たちを守り、自分も守ることになるということであった。その場の判断一つで子供たちを守れたり、守れなかったりすることもあるのだと思い知った。私たちも早速、それぞれの児童クラブの現状を見直し準備をしておかなければないないと感じさせる研修会であった。
福里委員	協和小学校、水之上小学校の学校訪問に行かせてもらったが、２校とも雰囲気がよく、子供たちも落ち着いて授業を受けていた。幼稚園も同じであるが、教師の発問の仕方や子供たちへの声掛けの仕方によって授業への意欲や進み方なども全然変わってくるのだなと思い、小学校も幼稚園と一緒なんだなあと改めて感じた。 ７月１日に中学校の授業参観、ＰＴＡに初めて参加した。息子のクラスは担任が英語の先生なので、英語の授業だった。比較的落ち着いた雰囲気の中で授業を受けていたが、コロナ対策ということで私達は教室には入れず、廊下からの見学であった。その授業ではタブレットは全く扱っていなかった。隣のクラスは数学の授業だったのでタブレットを使っていたようだったが、廊下側の一番前の子が居眠りをしていて、その子のことが気になってずっと見ていた。午後の最初の授業なので、眠たくなるよなあと思って見ていた。学年ＰＴＡの中では子供たちが友達へ対しての声掛けの中で思ったことを相手への気持ちを考えずにすぐに口に出してしまう事が気になるとの話があった。また、若い男の先生だったが、真面目にしている子供たちが我慢しなければならない学年であってはならないとの話もあっ

	た。若いのにしっかりしているなと感じた。以前まじめにしている子の方が辛い思いをしていると聞いたことがあったので先生の話を聞いて少し安心した。先生によっては、「テストがよくても真面目にしないとよい点数は上げられないよ。」と最初に生徒に言われるようで、息子がそんな話をしていた。真面目にしないといけないとちゃんと先生方が子供たちに言ってくださっている。私は、中学校は教科毎に先生が変わるので、何となく先生と生徒の距離があるのかなと思っていた。しかし、担任の先生を含め先生方が、しっかりと生徒を指導してくださっているのが分かり、凄く安心して帰ることができた。ＰＴＡも参加人数が凄く少なかったので、皆、先生の話を聞いていたら安心したのではないかなと思った。１組は担任がお休みをされることが多いので、生徒たちは少し不安に思っていると聞いた。その先生の教科のテストは、問題数が非常に多く、平均点もかなり低かったみたいで、子供たちの反感を買ったらしい。しかし、副担任がしっかりと生徒たちを指導してくださるので、うまく学校生活が送れているのではないかと思った。
教育長	先週の木、金曜日で奄美大島に行ってきました。そこで県下19市の教育長会・総務課長会が開かれたので、その時の様子を少し話します。今、奄美は非常に元気です。「あー、そういうことだったのか。」と思ったのが、世界遺産です。世界遺産に登録されたことで、人の移動が多く、全国から人が集まって来ます。飛行機も、福岡・大阪・東京からの直行便がいますので、どんどん大島本島に人が入ってくる。また、島を伝って行って、最後は沖縄から帰って行く観光客もいる。色々な話を聞く中で、このように日本全国から人が集まるので、ホテルが足りないそうです。それほど、奄美大島を観光したい、あるいは歴史を探究したいと思う人が多いそうです。 奄美の文化・歴史を始め文化財等を担当している専門員という人がいました。３１歳男性。この人がエネルギッシュでとにかく奄美好き、奄美を語らせたら右に出る人がいないというような凄い人でした。30分程度のプレゼンがありましたが、非常に興味深い話で、ある程度基本的な話は皆知っているので、ちょっと深いところで言えばというような話をされました。あのような専門員がいる自治体は強いと思いました。すごい情報発信力があるんだろうなと思って聞いておりました。 教育長会の議題ですが、大きく７つありまして、これは教育委員の皆様方も興味がおありのことでしょうからお伝えします。まず、管理職住宅の取り扱いはどうなっているかという問題。校長・教頭の住宅ですが、本市の場合は半々だと思います。半分は教職員住宅に住んで頂いて、半分は民間の住宅。次第に民間へのウエートが大きくなっていくと思います。他市も段々築40～50年経過し、取り壊して普通財産へ移行するということを考える時期にきていると思います。因みに垂水で平屋1棟取り壊すのに幾ら掛かるかご存じですか。木造平屋で250万円です。２階建て住宅になると400万円です。処分代がとても高いそうです。それに、今ではアスベストの調査が義務付けられるので高くなるそうです。 次は、学校給食の公会計化。学校給食をどう公会計化していくかという

	問題です。所謂、公会計になると事務職員の仕事の負担が軽減されますよと言うことになる。しかしながら、19市のうち、この公会計化に取りかかろうとしているところは財力のあるところだけです。鹿児島市、霧島市ぐらいのものです。なかなか難しいと思います。人を配置してシステムを作って、おまけにかなりの予算を伴いますので、なかなか難しいところです。 ３点目が、家庭の教育力向上についてです。これはもうどこも頭を痛めています。先程、田原委員が、「今の教育問題の多くは、家庭教育に起因する。」ということをおっしゃいましたがその通りです。色々なことを抱えてどこの市も教育委員会も大変な思いをしているという本音の部分が出ました。例えば、親と子のＳＯＳ教育。子供の思いを受け止め、子供はどう発信していくのか、これは非常に大事な教育です。あと家庭教育学級ですが、これをどう充実させていくのかというところが話題になりました。 次は本市もすごく関連しますが、市民・保護者に対する特別支援教育への理解と啓発の問題。これはなかなか難しいです。例えば、保護者に特別支援学級を薦めても、「はい、分かりました。」と子供の就学を決める親はなかなか少ないと思います。理解されるまでかなりの時間が掛かる。ところが一旦理解して頂けると、本当はそれがその子にとって最も相応しい教育なので、うちの子は、本当にここに通ってこの子らしさが出てきたということになるのです。だから時間をかけて取り組んでいかないといけないと思っている。 因みに、本市もそのような就学指導にきちっと時間をつくって向き合おうということで、昨年から予算をかけて、４日間の就学相談をやっています。スタートを早くして、それだけ保護者の理解を得ようということで今進めているところです。 次は、ＧＩＧＡスクール構想。「垂水は、やっていますよね。」と言うことで、これは、私に聞かれました。特に何を聞かれたかと言えば、職員研修の事です。これは非常に悩ましいことなのです。本市は割とそういうところも非常にシステム化しているというのか、先生方の気持ちが違うなと思っています。実は土曜日の午後にオンラインの自主研修会をしたら、指導主事・学校教育課長の他にも20人ぐらい参加してくれました。まさに、自主的な学びです。講師には、桜島に発想の面白い教頭がいるのですが、その人にお願いして、１時間ぐらいの話と30分ぐらいの質疑応答をしてもらいました。そのようなことで、今後も色々な面白い取組、あるいは具体的な交流をしながら本当のＧＩＧＡスクールを深めていきたいと思っています。本市の場合はそういう基盤ができている。それに、渡邉先生もいらっしゃる。この前から色々報告して貰っていますけど、中央中が県の研究校、水之上小学校が教育センターの研究校ですが、そういうところも非常に強みだと思っております。あと、広報誌あるいは新聞、講演会等で情報発信をしております。何と言ってもこの前学校訪問でも言いましたけれども、一番は管理職がタブレットの端末操作を覚えるということです。管理職のリーダーシップ。どの教員もまだまだこれからだと思います。本市が持ち帰りを含めて進んでいたのかなと思いますが、持ち帰りの部分で今一つかなと思う学校もありますが、どうやったら持ち帰れるのか、あるいはどうやったらもっと授業で効果的に使えるのかというところで二人の指導主事も入って続けていきたいと思います。

	最後はこれもなかなか悩ましい問題ですが、マイノリティーの問題が出ました。性的マイノリティー。所謂、子供の制服は、ズボン・スカートどっちでもいいんじゃないのか、そういうところまで柔軟に対応できているのか、あるいはもうそうしないといけない時代じゃないのかと。今はもう、男の子だから、きちんとズボンという時代じゃないですね。所謂、違和感の無い範疇ならいいということは、男の子がスカートを着くということは違和感がないということなのか、男の子が髪の毛を長くしたいということもいいのか等、多様性の時代を迎えました。これからその様な多様な事例も垂水でも出てくるんじゃないですかね。色々考えさせられる話題がでました。あと、教育総務課長会では、より具体的な事が、施設・設備等のことが話題となって情報交換できたみたいです。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長	６月 10 日から７月 11 日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、７月 12 日から８月８日までの行事予定についてお知らせした。
６　閉　会	